

三宅管内の遺伝資源の収集・評価・保存

【研究概要】

三宅村においては、レモン類を中心に生産振興を進めるため、実証展示ほ場の整備や生産体制の構築を行っているが、風の強い三宅島では、かいよう病発生リスクが高いため施設での栽培が推奨される。しかし、村にはレモンの施設栽培に関するノウハウが乏しいため、情報提供や栽培指導が急務である。それに対応するため、施設における栽培試験を行い、適正品種の選定や仕立て方法（開心自然形、垣根仕立）などの評価を行う。

施設レモン定植後（2年生樹）の初期生育について、樹幹容積は、開心自然形、垣根仕立てとも「リスボン」が優れた。樹高および主幹径は、開心自然形では品種間差は認められないが、垣根仕立てでは「リスボン>ユーレカ>ピラフランカ」の順に優れる結果となった。

引き続き成園化までの評価を進め、村への情報提供と栽培指導の参考とする。